森林環境教育活動事例2　小学5年生の総合的な学習

多摩市立連光寺小学校（東京都多摩市）では５年生の総合的な学習の時間に単元「雑木林と人のくらし」を設定し、その目標を「雑木林の自然の恵みを生活に生かしてきた人々の暮らしの様子や知恵を調べ、地域の自然の価値に気づき、積極的にかかわろうとすることができる。」としました。単元の目標に向かって、森林総合研究所多摩森林科学園と連携して年間4回の体験学習を実施し、個人の課題発見から地域の自然のあり方にかかわる体験活動までアプローチする学習を進めました。

1 森のウォークラリー（2007年7月）

樹木、動物、昆虫など森林の様々な生物や自然の不思議に気づき、関心を持つウォークラリーを通して、生徒が追求していく課題の発見を促すプログラム

５～６名の班で６ヶ所のチェックポイントを訪れて森にかかわる様々な問題に挑戦し、その結果をワークシートに記入しました。

2 森の探索（2007年10月）

テーマを絞った体験を通して、個々に追求してきた課題について知り、考えるプログラム

「植物」「動物・昆虫・鳥」「キノコ」のテーマ別チームに分かれ、リーダーとともにそれぞれの活動場所を訪れ、観察や調査を行い、活動の結果をワークシートに記入しました。

3 タケ伐採（2008年1月）

過密になった竹林における伐採作業を通して、地域の自然のあり方を考えるプログラム

伐採したタケを炭焼きの材料として利用するための準備作業も行いました。８～９名４班に分かれてマダケの伐採搬出、玉切り（横切り）と四つ割り（四つに縦割り）を行いました。専門家から、タケで作られたいろいろな生活用具などの話を聞きました。

4 炭焼き（2008年2月）

自分達できり出して割ったタケを使った炭焼き体験を通して、地域の自然のあり方を考えるプログラム

炭焼きは最も簡単な伏せ焼きで行いました。１日目は窯穴掘（かまあなぼり）から始め、炭材を並べて枯れ葉を充填し、煙突を付け、トタン板を被せ、土で覆い点火しました。２日目は、窯を覆った土を掘って、焼き上がった炭を窯出ししました。

１日目には空き時間を使って、ワークショップ「森とわたしたち」を行いました。子どもたちの課題にとらえられた森林生物のカードと、太陽、空気、水、土、人間のカードを合わせた58名のカードを、それぞれの生物がどうやって生きているかなど、子どもたちが追求してきた結果を引き出しながら、模造紙に張っていきました。さらに、生物相互や生物と太陽や水などとのつながりを考え、矢印で結んでいきました。

森にはたくさんのつながりがあります